

□登場人物：

サンタクロース

なおと

たくみ

イワオ

□「△△」は地名です。

それは上演地なり架空の街なりお好きにどうぞ。

プレゼントを盗まれたサンタクロースがひとり。

街の片隅で凍えている。

サンタ：ううっ、寒いなあ。〇〇県△△市か…。

さすが関東一の暗黒街とはよく言ったもんだ。

やっとの思いでたどり着いたと思ったら、車にはねられそうになるし、

あげくの果てには、プレゼントを盗まれてしまうという始末…。

ううっ…たかさんの子どもたちが私を待っているというのに…。

(なおと登場)

サンタ：ああ、きみ。

なおと：はい？

サンタ：このへんで大きな白い袋を持った男の人をみかけなかったかね？

なおと：さあね（去っていく）。

サンタ：冷たいなあ、どうして△△の人間はあんなに冷たいんだ。

△△だけじゃない、最近の人間はみんな冷たいよ…。

いや、こんなところで落ち込んでいる暇はないんだ。

△△のかわいい子どもたちが私のことを待っているのだから。
がんばらなければ！

(なおと再び登場)

なおと：おじさん、缶コーヒー買ってきたよ、飲みなよ。

サンタ：えっ、私にかい？

なおと：うん、あまりに寒そうにしてたからさ、遠慮なく飲んでよ。

サンタ：ありがとう。(飲む) うん、あったかくておいしいよ！
いやいや、△△の若者も捨てたものではないじゃないか。
こんな心やさしい若者もいるとは。

なおと：ところでさあ、おじさんこんなところでこんなかっこして何やってんの？

サンタ：何やってんの？って、私はほら、この通り、サンタクロースだよ。

なおと：ふーん。わかった、ケーキ屋さんの宣伝活動？大変だね～。

サンタ：違う違う、私は本物のサンタクロースだよ。

なおと：だってさあ、本物のサンタクロースならさ、
プレゼントが入った大きな袋持ってるはずでしょ？、
手ぶらってどういうことさ？
袋までプレゼントにあげちゃったの？

サンタ：それはね、さっきいきなり私の目の前に通りかかった男に
サッと盗まれてしまったからなんだよ。
それで私は途方に暮れているんだ…。

なおと：へえ、それじゃこまったね。

サンタ：だから大きな袋を持った男を見かけなかったか？
と聞いたわけなのさ。

(たくみ学ラン着て登場)

たくみ：ウィーッス！

なおと：おっいいねえ！クリスマス合コンにぴったりのカッコだよ！

たくみ：本当にこんなカッコで大丈夫なの？

なおと：もちろんよ！今時のカッコしていってもさ、
合コン慣れしてる女の子からはウケが悪いの。
そこでこういう普通とは違うインパクトで引き付けるってわけさ！
ヨッ！今日の主役！どうするよ今晚、準備万端？

たくみ：でもさ、女の子落とすのテクニックなんてこれっぽっちもわかってないよ。

なおと：大丈夫だよ、いざとなりゃ俺がフォロー入れてやるからよ。

たくみ：本当だね！これで毎年毎年一人ぽっちのクリスマス、
ようやく脱出できるってわけだね！やったね！
…で、この方は？？お知り合い？

なおと：あ？見ればわかるだろ、サンタだよサンタ！
そんなことよりほらもう時間だぞ、さぁ行くぞ！

たくみ：お、おう。

なおと：それじゃねサンタのおじさん！ザ・合コン・メリークリスマス～ス！

なおと&たくみ去る

サンタ：ああ…せっかくの聖なる夜…、合コン…女の子を落とすための
クリスマス…、今はこんな時代なのか…。

暗転

なおと&たくみ登場（サンタ舞台はしにたたずんでいる）

たくみ：だからこんなカッコじゃ絶対ダメに決まってるじゃん！
最初だけ“おもしろーい”と言われるだけで、
そのあとは全然相手にしてくれないしさ！

なおと：だっておまえが、あそこまで女の子苦手だと思ってなかったからさあ。

（このへんでサンタ登場、すみっこでさりげなく二人の話をきいている）

なおと：直立不動で「くお、くお、くおんばんわあ〜」
いくらなんでもアガリすぎだろ、女の子が引くのも当然だわ！

たくみ：そんなこと言ったらあんたもボーッとしてるだけ。
僕のフォローも何も、あんたまであの雰囲気飲みこまれてるし。

なおと：だってここだけの話だけど、ぶっちゃけあんまかわいい女の子
いなかったしさ…

（ここでいきなりイワオ、サンタが持っていた袋を持って登場）
（サンタ“おっ！”というリアクション）

イワオ：あーあー、クリスマスクリスマスてよお、
大荷物、一撃でかっぱらったと思ったら、中身全部おもちゃじゃねえか。
いらねーよ、こんなもん。ちくしょう。
あーあーあーあクリスマス？
どいつもこいつも浮かれた顔しやがって。
街中はあちこちコスプレサンタばかりだ！
ムラムラ…いやムカムカするじゃねえかよ！

(イワオ、袋置いたまま去っていく)

たくみ：おーい、忘れ物でーす！ああ行っちゃった…。なんだろこれ？

なおと：ありゃりゃ、おもちゃでいっぱいじゃん…

たくみ：どうしてこんなに…子だくさんの家なのかな？

なおと：ん、大きな…白いふくろ…、…そうだ！もしかしたら、さっきの
サンタクロースのかっこしたおじさんのものかも知れない。

たくみ：ああ、さっきうしろでポーッとつつ立ってた人？

なおと：そうそう！おもちゃがたくさん入った大きな白い袋が盗まれたと
言ってたんだ。

たくみ：うん、たしかに、中身がおもちゃだらけのこんな大きな袋を
持ち歩いてる人はそうはいない、
本当にそう言ってたなら、おじさんの袋の可能性が高いな、
今すぐ届けてあげないと！

なおと：まだあそこにいるかなあ？

たくみ：とにかく急いで届けてあげよう！今年は人助け、いやサンタ助けの
ためのクリスマス！

なおと：サンタのためのクリスマス？ゴロ悪っ…ま、たまにはいいか、よっしゃ！

(なおと、「よっしゃ」と袋を手にして持ち上げた瞬間、人が変わったように)

なおと：ピーピーピーピー、△△ノコドモタチガワタシヲマッテイル…ワタシヲマッテイル

(なおと人が変わったように走っていく)

たくみ：お、おいどうしたんだよお。

(たくみもあとを追う。すみっこで一部始終を見ていたサンタ、舞台中央に移動して)

サンタ：おお、なるほどねえ。こういう展開になるわけか…
今年のクリスマスは彼に任せてみるとするか…。

(暗転)

(音楽が流れ、サンタのかっこをしたなおと、プレゼントを配るパントマイム)

※子ども連れのお客が大半の場合は、プレゼントを用意して
実際に配ってあげたりするとなおよいです。

-例-

なおと：はーい、△△のよいこたちー、サンタさんですよー
いつもよいこにしてるみんなに、プレゼントをもってやってきましたー
ほしい子はいるかなー？
おっ、いい子だね、来年も再来年もいいこでいるんだよーハイ！（渡す）

ハイ。君にはこれね（渡す）、おとうさんおかあさんと、いつまでも仲よくね！

ハイハイ、君にはこれをあげます（渡す）、えっ？前から欲しかったって？
それはよかった。もう、兄弟げんかなんかしちゃだめだよ。
（こんな感じで繰り返す）

はーい！ではまた来年！！

(なおと元気にはける、変わってたくみ登場)

たくみ：おーい、なおと～！
袋持ってどこ行っちゃったんだよ～もう！

(サンタクローズ登場)

サンタ：やあ、きみ。

たくみ：あっ、サ、サ、サ、サンタさん。

サンタさんが盗まれたらしいというあの袋、僕たち見つけたんですよ。
今、なおと、じゃない、さっき一緒にいたあいつが持ってるんですよ。
持ってるのに、持ったままだここに走って行っちゃって…はあ。
今さがしているところなんですよ。

サンタ：プレゼント持って走っていった…うん。

君はそのときの彼を見て何か感じなかったか？

たくみ：えっ？

サンタ：袋をもった瞬間に人が変わったかというかね

たくみ：そういえば、なんか高いテンションで走っていったような。
運動会の徒競争ですら、一生けんめい走ったこともないのに。

サンタ：(間) 実はね、彼は私の代わりにサンタクロースになったのだよ。

たくみ：は？

サンタ：私の持っていたあの大きな袋は、触れるべき者が触れた時に、
威力を発揮するのだよ。
私の代わりに彼は、サンタクロースになったのだよ。

たくみ：あいつが…サンタクロース…？

サンタ：…クリスマス・聖なる夜、昔はよかった。

キャンドルに火をともして家族で静かに祈りをささげる。
流れ星を見つめ泣いている子どもたち。
私からプレゼントをもらった時の、子どもたちの天使のような笑顔。
美しく、素晴らしいではないか。
ところがいつの頃からか、クリスマスは単なるドンチャン騒ぎと
化してしまった。
それどころか今や私の存在価値まで見失われつつある。
でも君は、さっき私のことを「サンタさん」と呼んでくれた。

ありがとう。

君は私がサンタクロースだということを信じてくれているのだね。

いや。実際にサンタクロースがいるかいないかなんて、どちらでもいい。

ただ大人になると、多くの人が失ってしまう、サンタを信じるという
純粋な気持ち、それだけはいつまでも忘れないでほしいのだよ。

たくみ：純粋な気持ち…うーんそれは僕にもわからないんだけど、でも
今日というか、今夜だけは信じられそうな気がするんだ。
こんな時代、こんな世の中だからこそ、僕は信じていたいんだ。
自分に正直にね…、へっ、ちょっとかっこつけすぎかな？

それより、せっかくのこんなチャンス。
ちょっとサンタさんに質問したいんだけど、
サンタさんって、ほらたとえば煙突のない家には、
どうやって入ったりするのかな？
昔からずっと疑問に思ってたんだ。

サンタ：うーん。教えてあげよう。
それはね、私の赤い服のポケットにはハンカチにくるまれた、
小さな星のかけらが入っているんだ。
ポケットからハンカチを取ると、その星のかけらから、
青い光が放たれて、ドアのカギ穴にすうっと入っていくんだ。
すると、ドアが開いて私を子どもたちのベッドにいざなってくれるのさ。

サンタの服のポケット、この中にはたくさんの夢と希望に満ちあふれた
あたたかいアイテムが入っているのさ。

たくみ：そうなんだ…。(間)…サンタさん、さっきから、ちょっと淋しそう。

サンタ：えっ？

たくみ：淋しそう。

サンタ：淋しい？そんなことないよ。

(カラ元気風に体を動かして) ほらこんなに元気じゃないか。

たくみ、せつなそうにサンタを見つめる

サンタ：どうしたんだい、私の本当の気持ちがわかるのかね？

たくみ：…もうばればれだよ。

サンタ：そうか、まいったなあ。君に一本取られたな。

君ももしサンタクローズになったらわかるよ。

サンタクローズというのはね、

淋しさや哀しさを背中に背負って生きてるんだ。

あの、子どもたちや描いているイメージとは裏腹にね。

たくみ：そ、そんなっ…。淋しさや哀しさって、そんなの、みんな一緒じゃないか。

老いも若さも男も女もサンタさんであろうがなかろうが関係ないよ！

みんなみんな淋しさとか孤独とか不安をかかえながら生きているんだよ！

それなのに、それなのにさあ、

サンタさんが人生知ったかぶりしてるだけで一番わかってないのは

サンタさんだよ！そんなのバカだよ！

結局逃げてるだけなんだよ…！

サンタさんが逃げちゃったら、僕らはどうしたらいいんだよ！

サンタさんを信じている子どもたちが聞いたら、きっと悲しむよ

サンタさんを信じて裏切られた子どもたちは、いったい誰を信じればいいんだよ！

サンタ：(間) …ハハハッまいったなこりゃ、

一本どころかカウンターパンチ三発は食らった気分だよ。

そうだね、私が、これではダメだよ。

いつでもみんなに夢を与えるべき立場の私が、

逆に夢をうばってしまっはね。

たくみ：…あっ、ごめんなさい！思わず、調子に乗ったこと言っちゃって…

サンタ：いいんだ、いいんだ、君の言う通りだから。ありがとう。

（気まずい雰囲気、ここでなおとテンション高く登場）

なおと：ハイ！サンタクロースデース！

コトシノクリスマスモブジプレゼントヲクバルコトガデキマシター！

ヤッタネ！

（サンタ、なおとの前で手をパンパンパン！と叩く）

なおと：…は？（正気に戻る）あれ、なんで俺、

こんなかっこしてこんなとこにいる？？あれれれれ？

サンタ：君はね、私の代わりに果たしてくれたようだね。

なおと：はあ？

たくみ：サンタさん、実は僕もさびしかったんだ。

それをまずサンタさんにぶつけちゃって…本当にごめんなさい。

サンタ：いや、君の言うとおりののだから。私は何も言い訳はしないよ。

子どもたちに夢や希望を与えなければならないはずの私が、

今夜は君に励まされてしまったね。

なおと：うわっ、もうこんな時間かよ！！

たくみ：ああ今年もういいや、女の子とのクリスマス過ごすのは

20XX年（来年）にかけるよ。明日は大雪になるっていうから

ホワイトクリスマス記念にふさわしい、男同士二人でカラオケ

に行きますかあ！

なおと：泣きのホワイトクリスマスカラオケ大会か、まあいいや！
それで盛り上がるとするか！
それじゃサンタさん、また来年、メリークリスマス！

たくみ：じゃあメリークリスマス！

サンタ：おおっ、メリークリスマス！

なおと：ところで俺の服は？

なおと&たくみ歌うたいながら去る

サンタ：ああ行ってしまったな…。
20XX年（今年）のクリスマス・イヴ、いろいろあったが
今年はこのストーリーで終了か…。
まあ、めでたしめでたしとしよう！

…ん、やけにまぶしいな…ああイルミネーションか…
きれいだなあ。
△△という街も、こうして見ると、
本当は素敵な街なのかも知れないなあ。

（サンタ、舞台袖に箱があるのに気づく）

サンタ：あれ、あんなに箱がある。
でっかく「サンタさんへ」で書いてあるぞ。
まさか私にプレゼント？私がもらうなんて初めてだ…、
と、とりあえず開けてみるとしよう…

（サンタ、舞台袖にはけて）

サンタ：（舞台袖から）こ、これは！

暗転

エンディング音楽

（※♪ホワイトクリスマスなど
サンタクロースのかっこした本物のサンタ三人登場）

本物のサンタA（たくみ）：
一人の男へ贈る、「夢」という名のクリスマスプレゼント。

本物のサンタB（イワオ）：
うまく行ってよかったですね～。

本物のサンタC（なおと）：
大人になると夢を持ち続けるのは難しいけれど、
せめて夢の中で叶えられればね。

本物のサンタA（たくみ）：
それが僕達の仕事。それじゃ、また来年。
20XX年（今年）のクリスマスから、
20XX年（来年）のクリスマスへ…。

暗転

男（＝サンタ）、背広姿で

男（サンタ）：いやぁ、昨日の夜さ、不思議な夢見たよ。
サンタになった夢！俺が！
サンタになった夢だよ！
サンタクロースって華やかなイメージだけどさ、
あの世界も大変なんだな～ホント！
でも目覚めよかったよ～

今日から仕事、またがんばれそうな気がするよ。

あっもう時間だよ、時間。
それじゃ、行ってきまーす！

(袖にはけて)

男(サンタ)：うわぁ、雪降ってるよ～！
雪だよ！雪！
今年は、ホワイトクリスマスになりそうだなぁ・・・

『サンタクロースへの贈り物』 終わり